

## よくある質問／FREQUENTLY ASKED QUESTIONS

最終更新：2020年1月8日

### ■■支払い・チケット関連■■

- Q1. 発表者（長編、ショートフィルム、プレゼンテーション）も、ドームフェスタへの参加申込みと支払いは必要ですか？
- Q2. 参加費や出品関連費用等で、領収書や請求書はもらえますか？
- Q3. 学生なのですが、作品応募をしており登壇予定です。ドームフェスタの入場券は「登壇者用」を買う必要がありますか？または、「学生割引」のチケットでも大丈夫ですか？

### ■■ブース出展 関連■■

- Q4. ドームフェスタ会場にてチラシやサンプル DVD などの資料を配付することはできますか？
- Q5. ブース出展は可能ですか？
- Q6. 出展するブースで、電気機器を使用することはできますか？
- Q7. 出展するブースで、物品の販売は可能ですか？
- Q8. 出展するブースで、ポスター等を掲示できる場所（壁・掲示板等）はありますか？
- Q9. 出展するブースエリアで飲み物等を提供しても構いませんか？

### ■■プレゼンテーション関連■■

- Q10. プレゼンテーションの持ち時間はどれだけですか？
- Q11. プレゼンテーションの際に質疑応答はありますか／実施可能ですか？
- Q12. 長編作品上映またはショートフィルムコンテストに応募する際、制作者プレゼンテーションは必ず実施しなければいけませんか／制作者プレゼンを行うために、必ずドームフェスタに参加しなければいけませんか？
- Q13. 制作者プレゼン（長編・ショートフィルム）は、どのタイミングで行うのですか？
- Q14. プレゼンテーションでは、どのような機材が使用可能ですか？発表データはどのように用意すれば良いですか？
- Q15. プレゼンテーションの際にドーム映像を流すことはできますか？
- Q16. プレゼンテーション用のデータ（パワーポイント等）は事前に提出する必要がありますか？

### ■■作品上映 関連■■

- Q17. Mp4 動画データのエンコード規格はどの様になっていますか？ 拡張子が.mp4 であれば、Amateras Encoder 以外のソフトウェアやエンコーダで作成したもので大丈夫ですか？
- Q18. Amateras Encoder のダウンロードリンクが見つかりません／Amateras Encoder は、どこで入手できますか？
- Q19. 5.1ch サラウンド音声の上映も可能ですか？ サラウンド音源はどのような形式で提出すればよいですか？
- Q20. 上映する作品の言語は日本語ですか？ 英語音声版も必要ですか？ 副音声の配信は可能ですか？
- Q21. 上映番組やプレゼンテーションのスライドには英語字幕も必要ですか？
- Q22. 長編作品上映やプレゼンテーションでの上映データを提出する際に送った HDD は返却していただけますか？ 返却いただける場合は、いつ受け取れますか？
- Q23. ショートフィルムコンテスト作品の尺が、申込時の申請よりも長く or 短くなってしまっても大丈夫ですか？
- Q24. ドームフェスタの参加者層はどのような感じですか？

### よくある質問【回答】

- Q1. 発表者（長編、ショートフィルム、プレゼンテーション）も、ドームフェスタへの参加申込みと支払いは必要ですか？

はい。一般参加者と同様に申込および参加費の支払いが必要となります。  
なお、登壇者向けの参加チケット購入は別途ご案内しますので、そちらをよくご確認ください。「ドームフェスタ観覧3日通し券（登壇者用）」を申してください。

- Q2. 参加費や出品関連費用等で、領収書や請求書はもらえますか？

参加費に関しましては、オンラインチケット（Peatix）をご購入いただきますので、請求書は発行いたしません。領収書は Peatix より領収データを表示・印刷することができます。詳しくは、Peatix ヘルプセンターの以下のページを参照ください。

<https://help.peatix.com/customer/ja/portal/articles/221024-領収書について>

出品関連費につきましては、協賛金（必要経費に充てさせていただきます）のご協力

をお願いしており、こちらについては国際科学映像祭実行委員会より請求書を発行させていただきます。

**Q3. 学生なのですが、作品応募をしております登壇予定です。ドームフェスタの入場券は「登壇者用」を買う必要がありますか？または、「学生割引」のチケットでも大丈夫ですか？**

学生の方は、作品応募や登壇予定の有無に関わらず、学生割引チケットを購入いただいても問題ありません。

**Q4. ドームフェスタ会場にてチラシやサンプル DVD などの資料を配付することはできますか？**

はい、可能です。ドーム入り口付近に無料でちらし等を陳列できるエリアを設けます。ちらし陳列・配布ご希望のかたは、2020年2月13日（木）～15日（土）の期間中に郵送または持参にて下記までお届けください。

〒123-0842 東京都足立区栗原 1-3-1  
ギャラクシティまるちたいけんドーム  
「国際科学映像祭ドームフェスタ担当」宛  
電話 03(5242)8161

※受け取り専用／電話等での問い合わせはご遠慮ください

**Q5. ブース出展は可能ですか？**

はい。WEBフォームよりお申し込みください。（申込受付期間：2019年12月1日～2020年1月15日）先着順での受付となり、定員に達し次第締め切ります。なお出展に際しましては、協賛金（1万円）のご協力をお願いしております。

**Q6. 出展するブースで、電気機器を使用することはできますか？**

はい、可能です。使用するワット数は特に制限を設けてはいませんが、申込フォームにて、電気使用量の見込みを申請してください。

**Q7. 出展するブースで、物品の販売は可能ですか？**

ドームフェスタのブースにおいて物販（寄付・カンパ等も含む）はできません。無料のサンプルやチラシなどの配布は問題ありません。（ちらし／無料サンプル等の配布のみであれば、[Q3 への回答](#)でご紹介している無料のちらし配布エリアをご活用いただけます）

**Q8. 出展するブースで、ポスター等を掲示できる場所（壁・掲示板等）はありますか？**

掲示スペースの確保が困難なブースエリアも一部あります。ポスター等の掲示場所が必要な方は、応募フォームにて「ポスター等掲示希望あり」の項目にチェックを入れて申込みをしてください。

**Q9. 出展するブースエリアで飲み物等を提供しても構いませんか？**

ブース出展エリアは、可能な場所とそうでない場所とがあります。食べ物・飲み物の提供を検討されている場合は、必ず応募フォームにてその旨お申し出ください。

**Q10. プレゼンテーションの持ち時間はどれだけですか？**

発表時間は、

- ショートフィルムコンテストの制作者プレゼン：3分
- 長編作品上映の制作者プレゼン：10分
- プレゼンテーション枠での発表：15分

を予定しております。なお、英語でのプレゼンテーションの場合は、通訳の時間を考慮し、それぞれ最大5分程度（ショートフィルムは2分）加算される見込みです。

プログラムの都合上、発表の途中でも制限時間が来た時点で発表終了となりますのでご了承ください。

**Q11. 発表の際に質疑応答はありますか／実施可能ですか？**

発表時間内であれば質疑応答の実施が可能です。会場からの質問を受け付けるための人員とマイクをご用意します。

**Q12. 長編作品上映またはショートフィルムコンテストに応募する際、制作者プレゼンテーションは必ず実施しなければいけませんか／制作者プレゼンを行うために、必ずドームフェスタに参加しなければいけませんか？**

原則として制作者プレゼンテーションは必ず行っていただきます。なお、[Q1の回答](#)にある通り、制作者プレゼンに登壇いただく方も、ドームフェスタの入場券購入が必要となります。

ただし、**海外からの作品出品者**で、どうしても来場が困難な場合に限り、ビデオレターを提出いただくことで登壇に代える場合があります。ビデオレターでの登壇を希望される場合は、必ず事前にお問い合わせください。

**Q13. 制作者プレゼン（長編・ショートフィルム）は、どのタイミングで行うのですか？**

作品上映の直前または直後（あるいは両方）に行っていただきます。詳しくは、登壇決定後に映像最事務局よりご相談の連絡を差し上げる予定ですが、とくにご希望の申請がない場合は、作品上映の直前に実施していただきます。

**Q14. プレゼンテーションでは、どのような機材が使用可能ですか？ 発表データはどのように用意すれば良いですか？**

パワーポイント 2013 がインストールされたパソコンをステージ演台にご用意しますので、USB メモリなどで発表用データをお持ち下さい。ご自身のパソコンでの発表をご希望の場合は、VGA D-sub 15 ピン接続ができるノートパソコンをご持参下さい。なお、HDMI 接続も可能ですが、演台ではなく、ドーム後方のコンソールでの操作となります。HDMI での映像出力等を検討される場合は、IFSV 実行委員会 ([info@ifsv.org](mailto:info@ifsv.org)) までご相談ください。

音声については、演台にて RCA 端子への入力が可能です。ステレオミニジャックの音声出力を、変換ケーブル（RCA-ステレオミニ）を介して接続いただけます。変換ケーブルはこちらで用意いたします。

また、登壇者用のレーザーポインターもご用意します。

**Q15. プレゼンテーションの際にドーム映像を流すことはできますか？**

はい、可能です。

プレゼンテーション枠での発表、および長編作品上映・ショートフィルムコンテストの制作者プレゼンにおいて、ドーム映像の使用が可能です。ただし、事前に上映用のデータ提出が必要です。詳しくは、募集要項をご覧ください。

**Q16. プレゼンテーション用の平面映像やスライド（パワーポイント等）は事前に提出する必要がありますか？**

ドーム映像以外の、平面映像やスライドのデータについては、事前送付の必要はありませんが、当日発表前に、会場にて発表用データを提出いただきます。USB フラッシュメモリ等に入れて、当日お持ちください。

**Q17. Mp4 動画データのエンコード規格はどのようになっていますか？ 拡張子が.mp4 であれば Amateras Encoder 以外のソフトウェアやエンコーダで作成したもので大丈夫ですか？**

必ず Amateras Encoder を使用して動画データのエンコード（mp4 および wav 形式）を行い、Amateras Dome Player で再生確認をしてください。他のソフトを用いて書き出した mp4 動画をお持ちの場合も、ドームフェスタでの投影環境に最適化するため、必ず Amateras Encoder で再エンコードを行ってください。

**Q18. Amateras Encoder のダウンロードリンクが見つかりません／Amateras Encoder は、どこで入手できますか？**

Amateras Encoder は、Amateras Dome Player に同梱されています。要項に記載のある通り、Amateras Dome Player を株式会社オリハルコンテクノロジーズ <http://orihalcon.co.jp/amateras/domeplayer/> よりダウンロードし、入手したファイルを展開（インストール不要）してください。Amateras Dome Player と同フォルダ内に、Amateras Encoder も見つかります。

**Q19. 5.1ch サラウンド音声の上映も可能ですか？ サラウンド音源はどのような形式で提出すればよいですか？**

はい、長編やショートフィルムなどの募集要項にあるように、ステレオ音源の他 5.1ch サラウンド音源も再生可能です。サラウンド音源を上映用として提出する場合は、チャンネルごとのモノラル wav を 6 つ、ではなく、全てのチャンネルが一つのファイルに纏められた 5.1ch wav 形式のデータを提出してください。

**Q20. 上映する作品の言語は日本語ですか？ 英語音声版も必要ですか？ 副音声の配信は可能ですか？**

上映番組の言語については、日本語または英語を必ず含めてください。日本語音声と英語字幕、または英語音声と日本語字幕であれば、より理想的です。

（サイレントあるいはセリフの無い作品については、当然ながら日本語・英語等の音声を追加する必要ありません。）

なお、副音声の配信は、2019 年 10 月時点においては設備がないためできません。

（将来的な対応については、現在検討中です）

**Q21. 上映番組やプレゼンテーションのスライドには英語字幕も必要ですか？**

字幕は必須ではありませんが、日本語音声の番組やプレゼンテーションにも、できるだけ英語字幕の追加をお願いします。

**Q22. 長編作品上映やプレゼンテーションでの上映データを提出する際に送った HDD は返却していただけますか？ 返却いただける場合は、いつ受け取れますか？**

返却は、ドームフェスタ期間中に、受け付けにて返却いたします。その他の手段（郵送等）での返却は原則不可とします。

**Q23. ショートフィルムコンテスト作品の尺が、申込時の申請よりも長く or 短くなってしまっても大丈夫ですか？**

上限である 10 分を超えない範囲での変更はかまいませんが、10 分以上の作品は応募不可とします。（2019 年度から規定が変わりましたので、ご注意ください）

**Q24. ドームフェスタの参加者層はどのような感じですか？**

年によって異なりますが、およそ 80%が日本国内から、20%ほどが海外からの参加者となっており、プラネタリウムなどのフルドーム関連業界で活躍する国内外のクリエイター、プロデューサー、施設関係者などが集まる場となっています。

一方で、いわゆる業界関係者以外の方でも気軽に最先端のフルドーム作品などに触れられる、国内でほぼ唯一の貴重なイベントとしても認識されており、地元の家族連れやフルドームメディアに興味がある他分野の関係者の方など、普段はフルドームメディアに馴染みがあまりない方の参加も、徐々に増えているようです。